

インドネシア水道に係る情報収集 No. 190605-1J

検索サイト	Google	実施日	2019/06/05	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア AND 水道」で検索（「インドネシア の 水道」と表示される）					
URL: http://indojocho.ciao.jp/2019/0514_1.htm					
<p>標題: 「インドネシアで節水（前）」（2019年05月14日）</p> <p style="text-align: center;">インドネシア情報ライン（※ 備考参照）</p>					
<p>（要約）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都ジャカルタの上水需要は年間 8.24 億³と見積もられているが、水道会社 PAM Jaya の供給能力は 5.61 億³しかなく、住民の多くは水道に頼らない生活をせざるを得ない。 ・コンパス紙が 2019 年 2 月 23～24 日に 17 歳超の首都圏住民 574 人から集めた統計によれば、飲食用以外の上水需要（インドネシア語で MCK ; Mandi, Cuci, Kakus の頭字語）を、住民の 64.1% は地下水をメインにしてまかなっている。35.2% は水道に、残り 0.5% は瓶詰天然水に依存している。 ・上水入手の平均的な月間支出額（ルピア）（コンパス紙の同統計による）は、 <ul style="list-style-type: none"> <地下水メイン利用者> 0 21.5%、5 万未満 12.0%、5～20 万 39.4%、20～50 万 14.4%、50 万超 3.3% <水道メイン利用者> 5 万 5.9%、5～20 万 46.5%、20～50 万 35.6%、50 万超 4.5% <瓶詰天然水利用者> 5～20 万ルピア 33.3%、20～50 万 66.7% ・現在ジャカルタの水道事業は PAM Jaya が独占公共事業として担っているが、現場業務は、西半分をフランス系 Palyja（270 万軒、普及率 60.3%）が、東半分をイギリス系 Aetra（290 万軒、普及率 60.4%）が受け持っている。供給能力不足で、普及率がなかなか上昇しないのも当然と言える。 ・地下水汲み上げの結果としての地盤沈降や海水の地下水浸透問題などがあり、州は地下水の無制限使用時代はもう終わったと考えている。[続く] 					
備考 ※個人主催のインドネシア情報サイト					